

【松本俊夫全劇映画】  
**薔薇の葬列**  
 Funeral Parade of Roses

「ジュネ」のオーナー権田（土屋嘉男）とエディ（ピーター）のめぐるめく情事で映画は始まる。二人の密会を権田の愛人でもある「ジュネ」のママ、レダ（小笠原修）が見ていた。ベッドの中で権田はエディにささやいた。「もう少しの辛抱だ。レダを必ず辞めさせる。そうしたらお前は『ジュネ』のママじゃないかい。幼いエディを残し家を出ていった父。母の手一つで育てられたエディは孤独な少年だった。そんなある日、母の情事を目撃したエディは母を発作的に殺してしまふ。ベトナム戦争帰りの麻薬の売人トニーと一夜を共にするエディ。フーテンのゲバラ（内山豊三郎）たちとのマリファナと乱交パーティの世界に引き寄せられていくエディ。1960年代末期の新宿、六本木、原宿を舞台に、ピーターとゲイボーイたちのコミカルなドラマは血の惨劇へと変わる。

「元祖ビジュアル系」ピーター、衝撃のデビュー。六本木の売れっ子ゴゴロー・ダンサーだった16歳の美少年ピーターの突然のスクリーン・デビューは、一つの事件だった。家出して上京、ゲイバーで売れっ子になるといった、映画のストーリーと実際の経歴とが虚実入り交じり、無名の少年を一

躍「時代の神話的スター」の位置にのし上げた。金髪に化粧、ファッションブルな衣裳を身にまとい、今というビジュアル系の元祖といっている。妖艶なゲイボーイ姿と初々しい美少年ぶりが見られるのも、この映画の大きな魅力だ。時代の寵児ピーターは夜と朝のあいだに「歌手としてもデビューまた黒澤明監督の映画をはじめ俳優畑慎之介としても活躍しているのは周知の通り。

異色の登場人物たちによるウソかマコトか？映画に登場するゲイボーイたちは、俳優ではなく、すべて素人のゲイボーイが起用された。映画監督の篠田正浩、藤田敏八、デザイナーの粟津潔、演出家の蛭川幸雄らも本人の役で特別出演。故淀川長治も「こわかったですね。何ということでしょう、こののろわれた人間の運命。では、さよなら、さよなら〜。」と登場し、笑いをとっている。新宿街頭でのハブニング、監督によるゲイボーイ・インタビューなど、どこまでが現実で、どこからがフィクションなのか、観客を惑わせる。撮影時にはバトカーまで駆つけたゲリラ撮影だったという。

母を殺して父と寝た、現代のオイディプス神話。ハンリーニの『アポロンの地獄』でも描かれたオイディプスの悲劇は、この映画では母を殺した少年がそれと知らずに父と交わるというふうには、舞台を現代に移し関係は反対になる。「倒錯」した世界を舞台にした「倒錯した近親相姦」の世界。しかも「現代のオイディプス」は一国の王ならぬゲイバーの「女王」だ。冒頭にボードレール『悪の華』の一節「われは傷口にして刃、いけにえにして刑吏」という字幕が掲げられるように、ことさらに戯画化されて描かれたこの映画は、悲劇の不可能な時代に突きつけた監督松本俊夫の悪意の刃なのかもしれない。

監督：松本俊夫 *Toshio Matsumoto*  
 1932年生れ。映画理論家として活動しつつ、『西陣』(61)『石の詩』(63)等のドキュメンタリー映画を手がける。68年には『薔薇の葬列』で劇映画に進出、つづいて『修羅』(71)『十六歳の戦争』(73、公開は76年)『ドグラ・マグラ』(88)等を監督。日本の代表的な実験映画作家でもある。著書に『映像の発見』、『幻視の美学』他。



**5月1日(土)より 独占レイトロードショー**

特別鑑賞券1,400円好評発売中!  
 当日/一般1,800円・学生1,500円・シニア1,000円(税込)  
 毎週水曜日1,000円サービスデー!

**60年代ジャックATGオールナイト**

上映作品:『薔薇の葬列』、『初恋:地獄編』(羽仁進監督/1968年/1時間48分)、『新宿泥棒日記』(大島渚監督/1968年/1時間55分)、『書を捨てよ町へ出よう』(寺山修司監督/1971年/2時間18分)  
 5月22日(土) PM9:20~ 料金:当日のみ2,500円

連日PM9:20より上映(終映 PM11:10)

●劇場窓口でお求めの方のみオリジナル・ポストカードをプレゼント!  
 ●共通特別鑑賞券はキネカ大森での【松本俊夫全劇映画】でもご利用できます。

**テアトル新宿**  
 Tel.03-3352-1846  
 JR新宿駅東口・伊勢丹新館となり

華やかな「忠臣蔵」の裏の愛の物語 赤穂浪人・源五兵衛は、仇討に加わろうと、敵の目を欺くため酒と女にうつつを抜かす。だが、美しい芸者・小万への執心にはそれ以上のものがあり、小万も源五兵衛を慕い腕に愛の誓いの彫りものが。気が気ではない源五兵衛の忠僕・八右衛門は、なけなしの仇討闘争資金百両を主人の前に差し出すも、小万の使い三五郎が現れ、愛しい小万が他人に百両で身請けされるといふ。仇討のため一度は小万との縁を切ろうとした源五兵衛だが、愛を選ぶか、武士の道を選ぶか、心は千々に乱れる。結局百両を投げ出して小万を選んだが……。さあ、ここから地獄絵図。愛を選び、絶望の淵に落とされた源五兵衛の凄絶な復讐劇が始まる。

**中村賀津雄、三条泰子、唐十郎の熱演による愛憎の残酷劇**

主人公の源五兵衛には東映時代劇のベテラン・中村賀津雄(嘉穂雄)を起用、エロスと憎悪のみなざる凄まじい演技を見せる。深川芸者小万には民芸の新人・三条泰子が妖艶な色気で源五兵衛との濡れ場を熱演、美しい死に顔でも話題を呼んだ。小万と共謀し源五兵衛の金を騙し取る三五郎を演じ異彩を放つのが、当時の「赤テント」状況劇場を主宰していた唐十郎。無残な宿命に翻弄される男を好演し、その強烈な存在感を観客に印象づけた。

**「深刻ぶってはいけないのだ。これはゲラゲラ笑ってみるべき映画だ。」**

映画監督/大和屋竺

監督:松本俊夫  
 1932年生れ。映画理論家として活動しつつ、『西陣』(61)『石の詩』(63)等のドキュメンタリー映画を手がける。68年には『薔薇の葬列』で劇映画に進出、つづいて『修羅』(71)『十六歳の戦争』(73、公開は76年)『ドグラ・マグラ』(88)等を監督。日本の代表的な実験映画作家でもある。著書に『映像の発見』、『幻視の美学』他。

**4月17日(土)より**

「修羅」(ニュープリント版)  
 4月17日(土)~4月30日(金)  
 「ドグラ・マグラ」  
 5月1日(土)~5月7日(金)  
 「十六歳の戦争」  
 5月8日(土)~5月14日(金)

【松本俊夫全劇映画】上映  
 \*初日4月17日(土)、監督挨拶。PM7:45~初日、先着50名「修羅」ポスターをプレゼント。  
 連日PM7:45より上映  
 共通特別鑑賞券1,400円好評発売中!  
 ●劇場窓口でお求めの方のみオリジナル「薔薇の葬列」ポストカードをプレゼント!  
 ●共通特別鑑賞券はテアトル新宿での「薔薇の葬列」でもご利用できます。  
 当日/一般1,800円・学生1,500円・シニア1,000円(税込)  
 毎週水曜日1,000円サービスデー!



**キネカ大森**  
 JR大森駅東口 西友大森店5階 Tel.03-3762-6000

【松本俊夫全劇映画】  
**修羅**  
 DEMONS

ドグラ・マグラ  
 監督:松本俊夫/原作:夢野久作(ドグラ・マグラ)/出演:桂枝雀、松田洋治、室田日出男/活人堂シネマ作品/カラー/ビスタ/1969年/1時間49分  
 ●映像化不可能とされていた夢野久作の奇書「ドグラ・マグラ」初の映画化。幻想と恐怖の迷宮体験。  
 十六歳の戦争  
 監督:松本俊夫/出演:秋吉久美子、下田逸郎/サンオフィス作品/カラー/シネマスコープ/1974年/1時間34分  
 ●豊川海軍工廠跡を舞台に秋吉久美子主演第一作、フォーク歌手下田逸郎出演の異色の青春映画。